

# 安中新田会所跡 旧植田家住宅だより



第3号

1月23日(土)  
2010年(平成22年)  
発行所  
安中新田会所跡  
旧植田家住宅  
八尾市植松町1-1-25  
(072) 992-5311  
<http://www.kyuuedakejutaku.jp>

## はじめての年の瀬

### 「ヨイショヨ！」 元気な掛け声

二月二十六日午前九時。旧植田家住宅のかまどに火が入り、ふたつの釜でお湯を沸かし始めた。もうすぐお正月。二〇〇九年最後のイベントの始まりである。旧植田家に収蔵されている石臼をセツトし、せいろの準備もOK。もち米は一・五斗。前日から十分に水につかり、「早くお餅になりたい!」という声が聞こえてくる。(わけないか?)

を感じながらかまどに薪をくべるのも初めての体験だったようだ。そうこうしているうちに続々と参



土間は参加者で埋めつくされた

## 江戸・明治の食器で愉しむ食事会

二〇〇九年一〇月二十九日(木)、旧植田家住宅の閉館後に行なわれた「江戸・明治の食器で愉しむ食事会」が好評のうちに終了した。食事会は、旬の食材を使った料理

を旧植田家住宅所蔵の食器で提供しようと企画されたもので、申込者二〇名が参加した。当初は地元八尾の食材のみを使った郷土食弁当が計画されていたが、食材があ

### 主な記事

- ①もちつき大会/食事会
- ②基本展示スタート/3月は「装くよそおう」展
- ③文学に見る八尾—今東光—/河内木綿体験と講座
- ④講演「新田会所とオーナー」開催
- ⑤JR八尾駅前商店街聞き取り調査
- ⑥永畑幼稚園来館 ほか

加者が来館。幼稚園児からおばあちゃんまでが見守る中、「よいしょ!」という元気な掛け声のもと、もち米はその姿を変え、お餅へと変身してゆく。子どもたちにも餅つきを体験してもらおう。杵は子ども用とはいえかなり重いようだ。子どもたちはそれでも果敢に挑戦してゆく。何度もついていると上手になり、中には何回も並ぶ

子どもも。ピカピカにつきあがったお餅をみんなで丸めて、きな粉やあんこ、大根おろしなどと共に食す。大根は旧植田家住宅の庭で朝に収穫したもの。辛味が絶妙でおとも大満足。あつという間に全てをつきあげ、お昼過ぎに無事終了。参加者約二〇名。とても楽しい年末のひと時であった。

まりないこの時期、急ぎよ予定を変更。座敷でいただく贅沢な食事会となった。

今回、料理を提供して頂いたのは八尾市植松町にある「創菜庵ひろなお」さん。店主自らが厳選した旬の食材を使い、およそ二〇品の料理が御膳に乗せられた。御膳は二回に分けて運ばれ、江戸・明治の食器に盛りつけられた鮮やかな料理とそのボリュームにお腹も心も満たされた。また今回は特別に旧植田家住宅の畑で収穫された勝間南瓜を使った料理も用意された。

参加者同士の会話も盛り上がり、参加者からは「以前はお昼に来たが、全く違う雰囲気よかったです。」

御膳で運ばれてきた豪華な料理



御膳で運ばれてきた豪華な料理

## 桃林堂

- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(淡川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.torindo.co.jp/>

旧植田家住宅より西へ約20Mご利用を、お待ちしております。

おいしいお茶は心を豊かにしてくれます。



- 深蒸し煎茶 芳水 100g 200g
- 店主のおすすめ 季節の味わい 秋茶物語 100g
- 深蒸し煎茶 清緑 200g
- 暮らしのお茶からギフトまで



### おいしいお茶は専門店 龍華茶舗

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1  
☎ 0120-19-1184  
tel.0729-93-5673 fax.0729-23-5828

“りんごの木”は、障害をもつ人たちが、ひとつひとつ丁寧に縫製品や手織り品を作り働いています。

## りんごの木

HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人 信實福祉会  
りんごの木

〒581-0868/八尾市西山本町4-15-2  
作業所/072-993-4330  
ショップ/072-997-1440

# 新企画!

# 基本展示スタート

## 長瀬川・玉串川沿いの今とむかしがテーマ

一月六日から旧植田家住宅展示室で「基本展示」と呼ばれる展示が始まった。これは企画展が開催されていない期間を埋める企画だ。

基本展示はまず、大阪平野の成り立ちを解説したパネルから始まる。これを見ると、大阪平野がまだ河内湾であった時代、陸地は上町台地が半島状に突き出しているのみで、現在の陸地の大半が海の中に沈んでいたことがわかる。

その後、淀川(旧淀川)や大和川(旧大和川)によって運ばれた大量の土砂が堆積し、潟となり、次第に淡水化して湖となった後、平野が形成される過程が三枚の地図で解説されている。

その隣には大きな地図が貼られている。長瀬川と玉串川がかつて旧大和川の本流であったころの流域が示されており、現在は数メートルの川幅しかない長瀬川や玉串川が、一七〇四年の付替え前には、川幅一五〇メートルを超える大河であった様子をうかがい知ることができるようになっている。

また、この地図には新田地域の「ちよつと昔」と現在の写真が貼られており、見る人によっては「ああ、懐かしい!」と

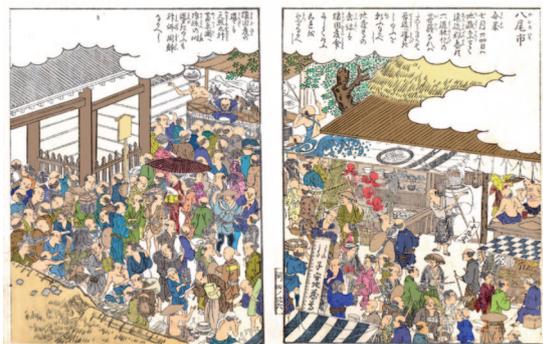


この地図を見ると旧大和川の本流、長瀬川(久宝寺川)の今と昔のようすが一目でわかる

いう人もあれば、「えー、昔ってこんなやつたん?」という人もいるだろう。親子、もしくはおじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんでそういった話をしながら展示を見るのも楽しいかもしれない。他には、江戸時代に出版された「名所図会」と呼ばれる本から、河内木綿や名所・旧跡など、八尾とその周辺地域に関する記事が書かれた部分が解説付きでパネル展示されている。「名所図会」は現在で言う観光ガイドブック的な性格を持つ本だが、緻密な挿絵が描かれており、当時の様子を知る好資料でもある。

なお、大和川付替えや河内木綿

については小学校四年生で習う。学校で授業を聞く前に予備知識を入れておくと、より興味を持って効果的に学習できるに違いない。



常光寺門前で開かれていた市の様子

## 企画展 三月は「装―よそおう―」がテーマ

三月三日(水)には展示室は基本展示から企画展に切り替わる。今回のテーマは「装―よそおう―」。装いというと、イメージが服にかたよりがちだが、今回の展示で主に展示されるのは化粧道具や装飾品になる予定だ。

化粧道具では定番のおしろい入やおしろい刷毛のほか、蘭引(らんびぎ)も展示される。これはいわゆる蒸留器で、化粧水などを作るために使われる道具だ。今では化粧品屋さんやドラッグストア

ア、コンビニでも買えるだろうが、昔の人は化粧水もお手製だった。きつと「〇〇がいい」とか「〇〇は肌に合わない」とかという情報が飛び交っていたのだろう。

装飾品では簪(かんざし)や簀(そうがい)などのほか、男性用の小物として煙草入や印籠も。今と違って昔の男性はあまり装飾品を身に着けないという印象があるが、実はそうではなく、こだわりの品々でオシャレを楽しんでいたのだ。

## ミニクイズ

### 【潟】かた

- ◆ (一) 砂州または沿岸州によって海と切り離されてできた湖や沼。狭い水路で海に通ずるものもある。潟湖(せきこ)。ラグーン。石川県、河北潟はその例。
- ◆ (二) 遠浅の海で、潮の干満によって陸地が現れたり水面下に隠れたりする所。干潟。
- ◆ (三) 浦。入り江。今も「松浦潟」「清見潟」のような地名に残っている。
- ◆ (三才堂『大辞林』より抜粋)



予告としてかんざしなど数点が展示されている

# 今東光の横顔にスポット

—あらためて見直される地域文化遺産—

八尾再発見「文学に見る八尾」  
「今東光と八尾」、この企画は例年、プリズムホール（八尾市光町）で行われていたが、今回は縁あって、旧植田家住宅において、伊東健（いとう・つよし）氏を講師に講演会が催された。併せて東光の八尾在住時の写真、初版本、シナリオ、ポスター、新聞報道等、当時のなつかしい貴重な資料が展示され、多くの人の関心の深さと人気の高さを見る事ができた。

まずは、東光の書いた文章を集めて丹念に読むことから始まり、現在の「今東光を語る会」に至っている。会ではその活動過程で、「世間では東光にまつわる毒舌・助平・喧嘩のイメージが誇張されすぎ、東光の全貌や河内についての事柄があまりにも知られていないのではないか。」という結論に達する。伊東氏は語る。「これほど、魅力的な人物・作家は稀だなあと心底感ぜさせられた」と。

ここではその魅力や作品の紹介をするには不勉強で、紙面もあまりに少ない。ただ、その楽しみ方のきっかけとして読もうと思われるなら「今東光を語る会」編の冊子『今東光の横顔〜生誕百年に寄せて〜』（一、〇〇〇円）の購読も併せておすすめする。講演資料をもとに作品解説や執筆のエピソードなど、分かりやすく興味がつきやすい内容である。

何回かの講演を聴いて、大和川付替えを題材にした『元禄の哀歓』や、『龍華寺址に立ちて』『熊野拾遺』『ヤッパン・マルスの作曲家』など、作家の日本・河内の歴史への造詣の深さに感心し、引



講演中の伊東健氏

き込まれる。そしてこのような市民メンバーの活動がなければ、生涯、今東光という人物や、八尾の歴史を身近に感じる出会いは、なかったのではないかと思うのは私だけではないだろう。古代より生駒山地の下で営まれた歴史に、ふと遡って想いを馳せることにより、時間を超えて今在るよるこびを感じ得ずにはいられない。

昭和二十六年（一九五二）九月、東光が八尾に初めて降りたのが今のJR八尾駅。そこから河内山本の天台院まで土ほこりの道を歩いて行った。

八尾のまちと人をこよなく愛し



## 河内木綿

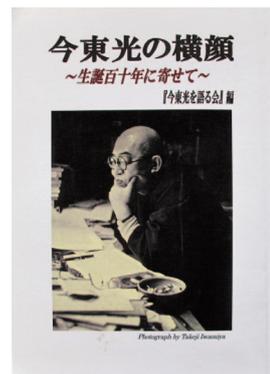
### 体験と講座

旧植田家住宅ではプランターで河内木綿を栽培しているが、今季はあざやかな黄色の花を咲かせ、ふわふわの綿を実らせた。

河内木綿の収穫も完全に終わった一月二〇日（土）河内木綿体験と講座が開催された。この行事は、かつての河内の人びとの生活を支えた「河内木綿」を知ってもらう、当時と同様の道具を使って、実際に綿くりや糸つむぎを体験してもらおうと旧植田家住宅が主催したものだ。

た今東光の原点がそこにある。

（敬称略）



『今東光の横顔〜生誕百年に寄せて〜』（今東光を語る会編 頒布価格一、〇〇〇円）

\*旧植田家住宅にて販売

わたれた。参加した人は、綿くり、糸つむぎを体験した。綿くりとは実綿から種を取り出す作業で、綿くり機を使って行なう。単純作業ではあるが、参加者の多くは綿くりの作業に夢中になっていた。綿くりの後、綿打ちした綿を細長く丸めた「じんき」をつくり、糸車で糸をつむぐ作業を行なう。参加者は糸をつむぐ作業に苦戦していた。また、主屋の二階では機織りの体験も行なわれた。

今回の河内木綿体験と講座には年代を問わずたくさんの方が参加していた。親子連れの人たちは本当に楽しそうに体験していた。旧植田家住宅ではこれからも河内木綿を多くの人に知ってもらうべく、触れてもらえる機会を増やしていく予定だ。



綿くりと糸つむぎの体験中

# 河内の歴史は大阪の歴史

## 新田会所とオーナー

二月一三日(日)、藪田貫(やぶた・ゆたか)氏(関西大学文学部教授、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究会)総括プロジェクターを招き、新田会所とオーナー「地元文化遺産のある魅力」という講演が行なわれた。他の新田会所などの現状をみながら、安中新田会所跡としての旧植田家住宅のあり方について語る藪田氏の講演に、一般の参加者のみならず、スタッフも熱心に耳を傾けた。



講演中の藪田貫氏

講演で藪田氏は「大阪の母体は河内と和泉」といい、その中でも大きな影響を与えたのが大和川の付替えで、その事業は現在の大阪をつくる事業でもあったとした。大和川の付替えは、中甚兵衛を中心とした、五〇年以上にも渡る住民の訴えを江戸幕府が聞き入れた形で行なわれ、結果として多くの新田が作られた。幕府にしてみれば、付替えは洪水を防ぐだけでなく、国土を拡大する好機でもあったと藪田氏は語る。

## 植田一郎コレクション

二月二六日まで「新田開発と人々―植田一郎コレクション―」が開催された。植田一郎は植田家の五代目当主で、明治期を代表する実業家・政治家として名を残している。

また、一郎は書画・骨董のコレクターでもあり、現在植田家に伝わっているもの多くは一郎の時代に収集されたものだという。寺子屋の師匠としても活動し、教育や文化の普及に努めた一郎。コレクションからはその人柄がうかがえる。



植田一郎の肖像画

新田会所は、江戸時代には新田の年貢を取りまとめたり、幕府からの命令を伝えたりする場所であった。明治維新の後には私邸として使われるわけだが、実際にそこには住まず、別邸として利用されていたところもある。ある種、事務的空間であった新田会所が文化的空間としての意味を持つのは、その「別邸」は美術品などを火災などから守るための保存場所としても利用されるとともに、庭や茶室が作られ、もてなしの場が形成されたためだ。

しかし、旧植田家住宅はそういった建築物としての空間だけではなく、日々の生活の中で使われていたものが、蔵に所蔵されていたものも含めて、すべて八尾市に寄贈されている。そのため、人のぬくもりを持ったまま空間が保存されている点に特徴があり、今後はそういったものほど文化財になつていく値打ちがあるのだという。

地域の文化遺産は地域の手で守ろうという動きは日本全国でおこりつつある。これまであまりかえりみられることのなかった、自分たちの地域にあるものを再発見し、誇りを持つとういうことなのだろう。

旧植田家住宅でもそれは例外ではない。これまで植田家の人びとによって守られてきた旧植田家住宅のさまざまな文化遺産だが、今後は地域の力なくしては守ってゆくことはできないだろう。藪田氏も講演の最後を「旧植田家住宅が地域での生涯学習と町づくりの拠点になつていければいい」と締めくくった。



講演会場の様子

## えっ？入館無料!?

# 「関西文化の日」に参加

安中新田会所跡旧植田家住宅は、二〇〇九年一月一四日(土)・一五(日)の両日、入館が無料になる「関西文化の日」に参加した。「関西文化の日」とは、関西元気文化圏推進協議会・関西広域機構が主催する事業で、「関西周辺の文化施設を知り、愛好をさらに深めてもらおう」と、福井県、鳥取県、徳島県を加えた関西の博物館・美術館、約四〇〇施設が参加し、一定期間の入館を無料で利用できる日を設けるというものだ。各施設によって実施日は異なり、この日、旧植田家住宅には大勢の入館者が訪れた。

初日の一四日は、あいにくの雨模様の天気であったが、無料で見学ができるという聞き、朝から問い合わせの電話が鳴った。旧植田家住宅の門前には「関西文化の日入館無料」の文字が書かれたポスターも掲示され、それを見た通行人はしばしば足を止めた。

二日目は、さらに多くの入館者が訪れ、この二日間でおよそ三〇〇名の入館者数を記録した。日ごろは静かな佇まいの旧植田家住宅も、かつて新田会所であった頃のにぎわいを取り戻したようだった。

# よみがえる!? まちと昔の 商店街

「植松のまちづくりを考える会」が、植松まち歩きマップ」の発行に

り植松ぶらっとマップ」の発行に続いて、NPO法人HICALIの協力を得て、少し昔の植松のまちの様子を商店街を中心に詳しい方から聞き取りをはじめている。

旧植田家住宅でも「郷土史伝承」の取組みの一環として、聞き取りの協力をし、昨秋より、昭和三〇年代・四〇年代はじめごろの、お店も多くにぎわっていたころの

植松のまちの様子を地図上で再現する取り組みをおこなっている。

この当時は、植松には、商店の数が現在の三倍以上あり、往来する人も多く賑わいがあったようだ。また、現在失われた年中行事や遊び・冠婚葬祭などの暮らしや

文化もありそうである。

「植松のまちづくりを考える会」では、その当時の様子に詳しい方が、高齢になってきて、次の世代に伝えるのが難しくなる前に聞き取りし、形に残していきたいと考えている。

聞き取りの様子は、参加された方が、昔のまちの様子を克明にとっても楽しそうに話され、しかも、記録している人が、追いつかないほど口々に語られていたのが印象的であった。

今後は、一九六一年当時に撮影された航空写真などを拡大したものを使得、さらに詳しい聞き取りをしたり、回を重ね、古いまちの写真の発見や当時の子ども遊び、地域の暮らしや文化など郷土史にかかわることの聞き取りを行なっていくことも考えられる。引き続き、旧植田家住宅でも協力していく予定である。

「植松のまちづくりを考える会」

では、当時の情報や資料・写真を収集している。提供して下さる方、当時の様子を詳しくご存知で、お話しして下さる方はぜひ、「旧植田家住宅」までご連絡いただきたい。

安中新田会所跡旧植田家住宅

(電話)〇七一九九二一五三一一

\* 九時〜一七時 火曜休館



一九六一年の航空写真 画面右にJR八尾駅と渋川神社が見える

## マンジークン

安富士 暁



※ 植田家だより第1号を参照

## なわの伝統野菜 栽培日記

旧植田家住宅の庭の東側では、天王寺蕪(かぶら)・田辺大根・吹田慈姑などが育てられている。すでに十二月中旬に天王寺蕪と田辺大根は、種取り用以外の収穫を終えた。

なかでも一番立派に成長したのが「おかんの足」と名付けられた田辺大根。「おかんの足」は、大阪市東住吉区で催された「田辺大根フェスタ」に出陳。そして見事「葉ふりがいいDE賞」を受賞し、スタツフから歓声が上がった。

今畑に残っている大根達は、春になるとキレイな黄色い花を咲かせ、次の世代へと命をつなぐ。そ

## <カブラレシピ>

### ウナギとカブラのあんかけ丼

材料(4人分)

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| ごはん             | 丼4杯分   |
| ウナギのかば焼き        | 1尾     |
| カブ(大)           | 1個     |
| ユリネ             | 1/2株   |
| (A)             | 1/2カップ |
| ・出し汁            | 大さじ1   |
| ・酒              | 大さじ1   |
| ・みりん            | 大さじ1   |
| ・うすくち醤油         | 大さじ1   |
| ・水溶き片栗粉         | 適量     |
| ・おろしワサビ(お好み) 少々 |        |



- (1)ウナギはアミ・フライパン等であぶり、3cm角に切る。
- (2)ユリネは一枚ずつはがしてサツと湯がく。
- (3)カブはすり下ろし、水気を絞っておく。
- (4)鍋に(A)を入れ沸騰させ、(2)・(3)を入れてサツと煮て、水溶き片栗粉でトロミをつける。
- (5)丼にご飯を盛り、(1)をのせて(4)をかけておろしワサビを盛り、でき上がり!

右/葉ふりがいいDE賞を取った田辺大根  
左/田辺大根重さ当てクイズの様子



してまた次の冬には第二の「おかんの足」が育つことだろう。

# 昔の暮らしを体験!

## 地元の幼稚園児八九名が来館

一二月七日(月)開館してまもなく、にぎやかな子どもたちの声がだんだんと近づいて来る。永畑幼稚園の年中・年長各二クラスの四クラス、計八九名が見学に来て来た。出迎えのスタッフに一人ひとりが元気に「おはようございます!」と挨拶をして、次々と主屋の中へ。ヒロシキとカマヤの間のウチニワに先生と併せて一〇〇人近くがきつちりと収まり、先生と学芸員からの説明を聞くことができた。

まずはご飯炊きの説明。先生がお釜でギョツギョツと研いだお米に、スタツフのおじさんが水を入れ、かまどの薪に火をつける様子を食い入るように見つめる。「おいしく炊いてね」とお願いして、クラス毎のグループに分かれ見学開始だ。

聞くと、マンションに住んでいる子どもがクラスの三分の二もいて、少々驚く。「昔のお家は紙と木と土と石で出来ています。」「壊れやすいから、静かにやさしく動いてね。暴れるとふすまが破れたり、畳がポロポロになったりするからね。」「紙や木は燃えやすいので、あちこちに火事にならない工

夫やおまじないがしてあります。」との説明と、初めて目にするものを前にして、どの子も興味津々。土蔵一の河内木綿のコーナーでは糸車を指さし「これ、幼稚園でやったことある。」「糸にしてな、こんなシャツとか靴下とかになるねんな!」庭の畑でも「あ、大根。幼稚園でも植えてるねん。」と知っていることは、口々に大きな声で教えてくれる。

全体の見学が終わると、再度ヒロシキに集合。付添いのお母さんたちが炊き上がったご飯を握り、小さなおにぎりを作ってくれていた。「いただきまーす」を合図に「おいしい。」「ちよっと固いな。」と言合いながら、おいしそうにか

たりを聞いてみた。

「今回の展示も旧植田家住宅に所蔵されている優品を展示する予定です。前回は様ざまなジャンルから選び出したものを展示したのですが、今回は時代を幕末にテーマを絞ってみようかと考えています。最近、龍馬ブームで幕末の注目度が高くなっています。旧植田家住宅もその流れに乗れるといいんですけどね。」とのこと。

## 開館一周年記念展開催予定

旧植田家住宅は五月に開館一周年を迎える。これにあたり、展示室では四月からは開館一周年記念展示が開催される予定だ。

開館記念展示の際には「植田家を語るものたち」として、様ざまな優品が展示されたが、今回は果たしてどのような展示になるのだろうか。学芸員の宮元氏にそのあ

ぶりついていた。

昔のお家とカマド炊きのご飯を堪能した子どもたちは、「また、来るね。」と来た時より元気いっぱい、先生の「かけ足、ピッピッ!」と吹く笛とともに幼稚園へと帰って行った。



学芸員の説明を聞く永畑幼稚園の園児たち

## 今後の予定

一月六日(水)～二月二八日(日)  
基本展示(展示室)

- ・長瀬川と玉串川の今とむかし
- ・名所図会に見る八尾

一月二三日(土)

お茶会

- ・一〇時～
  - ・一一時～
  - ・一三時三〇分～
- (定員になり次第×切)

三月三日(水)～三月二九日(月)

企画展「装―よそおう―」

三月六日(土)

講座「おひなさんの歴史」

講師・安村 俊史氏

(柏原市立歴史資料館学芸員)

行事・展示に関するお問い合わせは、安中新田会所跡旧植田家住宅(072-992-5311)まで。

\*午前九時～午後五時・火曜休館

## 編集手帳

昨年の秋から年末にかけて行事が多かったこともあり、第3号は新春特別号としていつもより2ページ増えました◆それでも紙面はいっぱいいっぱい、多少読み応えのあるものになっているように思います◆今年も様ざまな展示や行事を行なっていきますので、よろしくお付き合いいただけますようお願いいたします。(み)

新年明けましておめでとうございます  
本年もご愛顧のほど  
よろしく願い申し上げます

JR 八尾駅前商業協同組合

ふれあいとぬくもりの商店街

